

SPECIAL  
Interview

Kanda  
Kaori  
神田香織さん  
(講談師)

『はだしのゲン』を語る、  
現在を語る――

広島原爆を描いて今も読み継がれるマンガ『はだしのゲン』を講談にして以降、数々の新作講談で平和を語り続けている神田香織さん。新入生に向けてのお話をうかがいました。

俳優から講談師へ

――どうして講談師になられたんですか。

私は新劇の俳優になりたいと思っていて高校卒業後に劇団に入ったんですが、ちょっとなまりがとれなかったんです。

私は福島県いわき市の出身で、そこを舞台にした映画『フラガール』を観るとわかるんですが高低のアクセントがなくて平板なんです。「…だっべ」みたいに。一言しゃべるたびに笑われて、辞めるしかないかなと思いつつも、なまりが直らなくて俳優を辞めるのも悔しい…。

そんなときに「直すには講談がすごくいいみたいよ」とたまたま友達に誘われたんです。それで行ってみたらけっこう面白い。非常にメリハリと勢いがあったり力強い表現なんです。それが講談と出会うきっかけでした。

最初は前座修行として三年間の下働きを必ずやらなきゃいけないって、それがもうつらかったんです。でも、グツとこらえて、他の人が気持ちよく仕事をできるために自分は舞台に上がれなくてもひたすら楽屋仕事を頑張る。それが苦痛でなくなるのが修行なんです。芸人としてはお客さんがどう思っただけ聞いてくれるのかわかるのが大切でしょ。三年くらい下働きをやるとその気遣いができるようになるんです。



#### PROFILE かんた かおり

福島県出身。県立磐城女子高校卒業後、東京演劇アンサンブル、渡辺プロダクションドラマ部を経て1980年神田山陽門下生となる。二つ目以降、ジャズ講談や一人芝居の要素を取り入れた独自の講談を次々発表、講談の新境地を切り開いている。86年「講談はだしのゲン」公演で日本雑学大賞受賞。95年いわき市のサンシャイン大使に任命される。98年いわき商工会議所婦人会名誉会員となる。日本演芸家連合加盟、講談協会会員。オリジナル作品に「新版はだしのゲン」「いわき発安寿と厨子王物語 平成版」「漢方復興物語 和田啓十郎伝」「チェルノブイリの祈り」など多数。 URL <http://www.ppn.co.jp/kamda/>

— 神田香織さんの代表作は『講談はだしのゲン』ですが、なぜ「戦争」をテーマに？

前座が終わって二つ目という身分になるとプロの唄家としてスタートできるんです。新作をやってもいいし、どんなお話をやってもいい。

うれしくて昇進の記念にサイパンに遊びにいった。そこで戦跡と出会ったんです。観光名所になっていますが「バンザイクリフ」という崖なんて一万人近くの人からそこから飛び降りていった。三〇メートルくらいもあるのに……。

戦争当時、日本兵は降伏しちやいけない

という教育を受けていました。それに日本軍はアジアで大勢の捕虜たちを面白がってむごく殺していました。土の上に頭だけ出して車でひいたり、股裂きにしたり……。だからアメリカ方の捕虜になって同じような目に会うなら死んだほうがいい、とみんな崖から飛び降りていったんです。それこそ一〇代、二〇代の若い兵士から、当時は日本が統治してましたから現地のチャモロ人やそこにいた日本人の家族もみんな……。子どもを突き落として、その後から親が飛び降りていく。前向きだと足がすくんじゅうから後ろ向きにさせられて……。

その同じ現場に立って、景色はすごくいい

#### 『はだしのゲン』との再会

いんですよ。海も空も真っ青だし……。私らはこうやって好き勝手に平和に生きていられるのに、ちよつと先に生まれた人たちはここから「天皇陛下バンザイ」といって飛び降りなければいけなかったんだな、と思うと気の毒で不公平な気がして……。

日本でも三百万の人たちが死に、アジアでは日本軍が二千万人近くの人を殺している。そのときに申し訳ない、と思ったんです。それまで私の講談のテーマを何にするかつかめないでいたんですが、「そうだ、じゃあ戦争の悲劇を伝えることをテーマにしよう」と決めました。

いいテーマが見つかったなあ、なんて思って日本に戻ってきました。じゃあ、戦争を勉強しようと思ってみ始めて、沖縄や広島・長崎に行ったり戦争の跡を見て歩いた。するとだんだん気持ちが悪くなっていくんです。

沖縄戦では、島民が隠れている洞穴に日本軍が来て「俺たちが使うから出て行け」と追い出し、島民は出たところを射殺されてしまう。日本軍は赤ん坊が泣くと「うるさい」と殺してしまいい、沖縄弁でしゃべっているの意味がわからないから「スパイだ」といってまた殺すんです。そして最後にはみんな「自決」させちゃう。日本軍が沖縄に行かなければ島民の四人に一人が殺され

1945年8月6日、1発の原爆で広島は壊滅。同年12月末までに14万人以上の方が亡くなったと推定される。(上・原爆炸裂1時間後のキノコ雲。下・45年11月の広島爆心地付近。ともに米軍撮影)



るとはならなかったんです。

そういう状態を想像すると夜も寝つけず、夢の中にいろいろ出てくるんですよ。それで、「こんな大きなテーマを私は語れない。なんて生意気で大それたことを考えたの、だろう」と思っていたんです。

けれども、広島原爆資料館で『はだしのゲン』のマンガを見つけた。「はだしのゲン」は私が小さい頃「少年ジャンプ」の連載を読んで、すごくビックリして感動して元気になった。それを思い出して全部買って読んでみます。作者の中沢啓治さんが自分の体験で書いているわけですから、彼の怒り、彼が見た原爆の現実、そんななかで庶民が貧しくとも仲良く暮らしていくありさまが描かれている。この作品は力強く

反戦・反核、戦争のむごたらしさを訴えることができる作品だ、と思い講談にしたのが一九八六年です。

当時は今より日本は風通しがよかったですし、東西冷戦状態で日本の自衛隊が海外派兵するなんて考えられなかった。それで「なんでいまだき戦争？ 原爆？ もう古いよ」と言われたんです。

でも、一九八六年四月にソ連でチェルノブイリ原発事故が起こった。およそ八十万人が消火活動に動員されたんですが半数くらいが死んでるんですよ、ガンで。事故の一週間後には日本にも放射能が降り注ぎました。軍事目的の原爆でも平和利用の原発でもひとたび事故が起きたらとてつもない災いを及ぼすのであって、「核は怖い」と世界中が再認識しました。その八月に『はだしのゲン』ができたんです。

国立演芸場で発表したときに被爆者団体の方にも来てもらいました。それでつらくて嫌だったら一回だけの発表で終わるつもりだったんですが、みなさん涙を流して「よくここまで言ってくれた」、本当にうれしいと泣きつかれたんです。それで「頑張ります」といつてもう二十年間も語っているわけです。

### 被爆者をのりこえて生きる

『はだしのゲン』はこれまで何百回と語

っていますけれども、被爆した状況をしゃべるのは本当につらいんです。今でも。人々が爆風で焼かれ、ボロボロのようになって皮がはがれて……。腕の皮が全部むけて爪のところまで止まってダラーンと垂れ下がる、だから幽霊みたいに手を前につき出しているんです。背中の皮膚もベロツと剥がれて後ろに垂れ下がっている……。そういう目にあった人たちが何十万といて瞬間に殺されてしまった。そのあとにも後遺症で延々と苦しんで殺されていく……。六十年後に発病したりすることもあるんです。

つらい話ですけども、私にとって話していて何がよかったか。私は私生活で次々と大変なことがつづいた時期があつて、カーツと嫌になって「死んでやろうか」ということが何回もあったんです。いじめられたりして死ぬ人がいまだ多いですけど、「もういいや」と投げやりになる気持ちを私はわからないでもないんですよ、実は。でも私になんとかのりこえてこられたのは『はだしのゲン』を語っているからなんです。

自分の体験もものすごい大変だけれど、将来の夢も何もかも一瞬で断たれて生きてくても生きられなかった彼らのことを考えたら、これは苦勞のうちに入らないかもしれないな、と思ひ始めた。彼らのことが頭にスーッと甦ってくれば踏みとどまれるんですよ。

このマンガを描いた中沢さんは「自分た



ちの不幸を踏み台にして幸福をかみしめてもらいたい」と言っています。被爆者をのりこえて生きていきなさいということですから、これから社会に出ていくとつらいこととかいっぱいあると思うんですけど、こういう考え方を私は講談を聞いてくれるみなさんに身につけてもらいたいと思うんです。

### 世界の中の「みじめな」日本

—そのような香織さんからすると今の日本と日本人の状況をどう思われますか。

本当に困ったことに『はだしのゲン』を作った当時より、今のほうがずっと戦前に近い。時代が逆流しているのをものすごく感じます。だからこそ私はこういうテーマの話をつらと語り、いろんな人に聞か

せて想像力を巧みにしてもらわれないといけないと思っています。

イラク戦争やその前からアメリカは世界中で劣化ウラン弾という核兵器やクラスター爆弾などを使って人々を殺しています。私の講談を聞いてそういうことを想像し、弱者に対する思いやりをもってほしい。そうしないとイラクでいま現在ひどい目にあっている人たちがいるのに日本人がノホンと自分のことしか考えないでいたら古い言い方だけど、これはバチがあたるよ。

日本の国民の一人である自分の位置を世界の中で客観的に見る眼を持たないといけないと思えます。いま日本がどれだけみじめなところにいるか。他の国はイラク戦争に加担したことを反省しているのに、アメリカに原爆を落とされた日本が尻尾をふつてくる。だからアメリカはイラクやイランもやつつければ尻尾をふつてくると思っている。日本は平和国家として毅然としないといけないんです。

小泉首相のときからなし崩し的にアメリカに従属しているでしょう。郵政民営化なんて日本人の財産をアメリカに差し上げちゃうわけでもんでもないですよ。今度の憲法改正だって間違いなくアメリカの国家戦略に沿うための改正で私たち国民の方に全然向いていません。

国民も悲しいかな、北朝鮮をもち出されると怖がりますが、それもナンセンスです。

北朝鮮の国民は食うや食わずですし、アメリカにイラクみたいになされちゃかなわない、と花火みたいなのを打ち上げて「あれは核兵器だ」と言っているんでしょう。

それに対して国会議員たちがまことしやかに「北朝鮮が暴発したら……」「日本も核保有を」とかと言っている。暴発の危険性があるのはこの国だろうが、何を言っているのかと思います。こういうなかで自分が何がやれるか、考えないといけませんね。

### 権力に対して見極める眼を

—新入生にメッセージをお願いします。

新入生のみなさんには常に権力に対して批判する眼を培ってほしいと思うんです。権力というのは国民をだましますから。「誰のため・何のため」ということを常に頭に置いて判断していかないとだまされますよ。日本人は、「国を愛しましよ」とか言われると「ハイ」とそつちに行く。「この国を愛せ」というのは、この国の国民を愛せ、というのとちがつて、「この政府を愛せ」なんです。そこをこのころをちゃんと見極めないといけない。本当にこの国のためを思うのであれば時として闘わなければいけませんよ。

(2007年2月14日)